



第12回 「大学生になったつもりで連立1次方程式を解いてみよう」

日時	2022年3月12日（土） 14時00分～15時30分
講師	竹内 司 東京理科大学 理学部第二部 数学科 助教
講義概要	<p>小学校で学ぶ算数の1つに「消去算」があります。例えば、「りんご1個とみかん1個を買うと160円、りんご1個とみかん2個を買うと250円です。りんご1個とみかん1個はそれぞれいくらですか。」という問題です。このりんごとみかんを文字に置き換えると「連立1次方程式」として考えることができ、連立1次方程式は中学校や高校でよく登場します。</p> <p>では、ここで質問です。連立1次方程式は必ず解くことができるのでしょうか？もしできるならば、その答えはいつも1つだけでしょうか？実はこの問は大学で扱う内容です。</p> <p>本講座では、大学1年生で扱う少しの知識と上のような簡単な例から出発して、必ず解くことができるのか・できないのか、答えは1つだけか否かななどを調べていきます。</p>
参考図書	『テキストブック 線形代数』（裳華房、2019年）佐藤隆夫著 『講義：線形代数』（学術図書出版社、2016年）鈴木達夫・穴太克則著